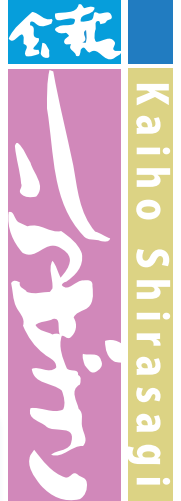


いま、共に考えたい

同窓会は **本来** どう在るべきだろう



第40号
主な内容

特集 ● **いま、共に考えたい**
同窓会は本来どう在るべきだろう 1〜5頁
しらさぎ会この一年 6頁 会長 松崎淳子 7頁
各支部の動き 8〜9頁 総会内容報告 10、11頁
恩師はいま、趣味シリーズ 12頁

● **しらさぎ会総会は**
5月の第3土曜。従って次回は
2007年5月19日

母校の高知女子大に何かの事態が起こったら、卒業生は「なにごとを差し置いても」、まずは駆けつけて母校のためにヒトハダ脱ぐ。こういう伝統が「しらさぎ会」にはずっとありました。それでも諸行無常、生々流々は人の世の常。この頃ではひところのような母校想いの「気概」がだんだん減ってきたように思われます。単に先陣をきってこられた諸先輩方がお歳を召されてきた、だけが原因とは思えません。こういう時期だからこそ、「同窓会ってどういう存在なが？ どう在るべきなが？」ということを考え、意見交換するのも、会報の大事な役割ではないかと考えた次第です。そこで、各科の卒業生にご出席をいただき、思いの丈を話し合っていました。（企画・渉外係）



▲ 2006年8月6日(日)。やっと一同の日程調整ができ、永国寺キャンパスで会が持た

座談会の出席者 (五十音順)
いましほ
今城恵里 (社会福祉学部3期生)
岡本ゆかり (食物栄養学科14期生)
久保田聡美 (看護学科32期生)
松吉明子 (国文学科28期生)
進行役
松崎淳子 (しらさぎ会会長)

諸先輩方の気概、パワー… 母校のためにできること

松崎会長 ● 私はね、昭和27年にこの同窓会を作った一人です。初代の会長をやり、このたびはまた母校が大変ということでも引つ張り出されました。医専時代からですと二度廃学問題が起こりましたが、卒業生はもろもろん在生だつて母校の一大事に事起こすというのは極めて当たり前のことでしたよ。

松吉 ● ここ一番！という時、諸先輩方が駆けつけてくださる力強さは池川順子先生の学長就任パーティーでもその迫力を拝見しました。諸先輩方はエリート集団で、気概も、凄いパワーも我々とは全然違うようです。

ただ、生涯学びたいという意欲は若い世代ももちろん持っていますから日頃から例えば、大学ではなく同窓会主催の勉強会などがあって、人間関係を養っていけば、「いざ鎌倉」という時にも同窓生が力を発揮できる素地は育つのかも知れません。
久保田 ● 大先輩の気概が我々と

1956.11.8女子大運動会。広い中庭が運動場だった。中庭を囲むように右手前に「ロングハウス」、奥の左が丸の内高講堂、その右二棟は校舎、左手前は女子大管理棟 (提供 寺内アヤ子さん)



まず総会に大勢が参加 する工夫。時期は？

岡本 ●例えば学校で行事がある場合、いま保護者はほとんどに集まりにくいんです。人集めがとつても大変な時代なんです。逆に、お祭りやお楽しみ会の会なんかはたくさん集まっています。ただですが、こんな人集めが大変な時代に、パワーのある諸先輩方が引退されたら、これからのしらすぎ会はどうなるんでしょう？

同窓生を支えるための活気ある基盤づくりはどうすれば可能でしょうか？そして、どうすれば「しらすぎ総会」にたくさん集まっていたらいいんでしょうね。

今城 ●学生時代、週に一度は永国寺キャンパスで授業を受ける



ようにいわれてはいましたが、社会福祉学部には永国寺キャンパスの情報はほとんど入ってこ

なかつたというのが実感です。つまり、同じ大学内でさえ情報共有はこのレベルでしたから、同窓会がいま何をやっているのかは知りようがないというのが正直なところですよ。

松吉 ●同級生レベルで集まるというのが無理の少ないところでしょうが、私のクラスは私が世話役で3年ごとにやってはいますが、年々参加者が減っているのが現状です。

会長 ●集まるためには世話をする人がおるかどうかが問題。昔の卒業生はぎつちり電話かけるぞね。いつの間にか「集まる体質」が出来ちゆうといえるわね。

久保田 ●子育て中とかライフサイクルで見えた場合、集まりにくい時期もある。いづれにしても集まるためには個人個人にアプローチするというのが効果的。

会長 ●昔の卒業生だって、クドイけど、集まる必要がある時にはぎつちり電話かけるぞね。個人的に誘われて、一度二度は断られても三度四度となると「共有体験が目覚ます」のでは！

久保田 ●あと、総会の時期的な問題はいかがでしょうか。5月第3土曜よりも例えば夏休み中な

ら動きやすい人が多いかも知れないし、機会あるごとに皆さんに尋ねてみてはどうでしょう。**会長** ●会計年度とか検討課題は多いけれど、思い切った時期を見

同窓会の役割、期待すること、あれもこれも……

岡本 ●大学へどうやって愛着を持つかということも関連しま



ゆかり / 1982年、食物栄養学科卒。昭和高等学校・栄養士

すが、栄養士の場合、実習生の受け入れや女子大との連携で研究や食育を進めるなどでつながりが深まり、それが総会にも参加する原動力となるのでは。講演会や勉強会を定期的に開催するとか、女子大へ足を運んでもらう機会そのものを増やすということも考えたらどうでしょうか。

松吉 ●同窓会で「人材バンク」の登録制度のようなものがあれば、個人的に大学なり同窓会なりに何らかの関わりを持つということも可能になるのでは？
会長 ●もう少し具体的にいうと

直すということも、この際意義があるかも知れません。そういう風に、これまでの同窓会の「慣例」に風穴をあけるような提案は他にありませんか？

なにかのプロジェクトチームを創るといったこと？日本女子大には同窓会の機能として「子育てメッセ」をやっているという例があるけれど。

岡本 ●資格を持っていて働きたいのに子育ての時期に職場を離れて復帰の機会のない人などへの情報提供があれば……。

今城 ●職業紹介をしらすぎ会がやってくれるということですか。
会長 ●職業紹介のチラシを会報を送る時いっしょに入れるかね。

久保田 ●4年間をともに学んだという共通の土壌を持つ意味は大きいですね。女子大の卒業生ならばと仕事を紹介する場合で



左側が「ロングハウス」。日章航空隊の古材を持ってきて建てられたもので、真ん中から西半分は生活科や英文科の教室があり、東半分には生活科実習室や研究室、学生の経営する売店などがあつた。その向こうは、県立女子専門学校（寄宿舎）（写真提供は三浦光世さん）



会長 ●高知女子大学在職中に生協の理事長をしていた時、生協理事会で食生活提案活動と銘

も安心感が持てるのか。**岡本** ●南海地震対策は地域を挙げて取り組まれています。しらすぎ会員はその専門性を活かして、それぞれの地域でこういうことができるというように「ボランティアマップしらすぎ版」をつくることも考えられます。お互いにそういう情報があれば何かと心強いと思うのです。

打った食育プロジェクトに取り組みました。「小さな生協の大き



な仕事」ということで、大学生協本部から誉められたぞね。

「人材バンク」への登録をどうするか

あの時のように領域を特定したプロジェクトチームを立ち上げるという方法が考えられるわねえ、「食」の領域に関わる会員は結構いるから。

松吉 ●いづれにしても、個人個人にアプローチするということは、この席上でもすでに何度も話題になりました。何らかのプロジェクトの立ち上げでも大きな波をつくっていくには結局、個人個人への地道なアプローチから始まるということですね。

あつた。その中で、食生活科の先生方と立ち上げて、まじめな活動をしているけど、そういうなかで、守備範囲は違っても「健全な食」を掲げて取り組んでいる前向きな人たちとネットワークを組もうと現在準備を進めているんです。そういうメンバーに在宅の栄養士さんにも加わってもらったらいいと思います。

久保田 ●ゆりかごから墓場まで「食」はいずれの人々にとっても欠かせない大切なテーマですから、「食」を核として食にまつわる色々なテーマで卒業生が関わられますね。

学部を越えた横のつながりももつともっと大事に考えていきたいですね。
松吉 ●まず「食」に関わるイベントで卒業生が集まっていたらいい方法があります。ただくという方法があります。ただし、ハガキがいくら来ても効果は少ないように思います。再三出ていますが、ナマの個別のアプローチが必要でしょうか。
会長 ●今、話題性のある、あのホラ、食品添加物で話題をさらっている安部司さんなんかの講演を皮切りにして、リカレントの効果を狙うとか。

今城 ●会長が個別に電話をいっばいかけられるということはいわれましたが、卒業して間もない私たちは、いまはまだ自分たちの仕事で手いっぱいというのが正直なところですよ。

それから、「プロジェクトチ

食生活提案プロジェクト



「新しい家庭科教育の創造」をテーマとして、小学校、中学校、高等学校、大学の家庭科担当の先生方が研究発表を行ない、研鑽と情報交換を目指して発足した研究会が、本年でちょうど50年目を迎えるそうです。年に一度、12月に行なわれる研究発表会はこのしほらく会場は高知女子大学が使われ、小学中学高校大学からそれぞれの代表者が出て、その成果を発表しています。

20年ほど前のことになりましたが、食について学ぶ当時の高知女子大生にも「知識と実生活が連動しない」、つまり「知っているのに、いい加減な食生活しか送れない」という風潮が見られました。そこで、生協の松崎淳子理事長を先頭に「望ましい食生活の提案と実際に食べてもらうこと」が企画されたのです。大勢を巻き込む楽しいイベントは、中央卸売り市場の魚屋さん

さらに「風土の味」を見直す伝統食を実際に調理し学生たちに食べてもらう企画も何度か実施されました。全国の生協のモデルケースになった活動だと評価されたとのこと

「新しい家庭科教育の創造」をテーマとして、小学校、中学校、高等学校、大学の家庭科担当の先生方が研究発表を行ない、研鑽と情報交換を目指して発足した研究会が、本年でちょうど50年目を迎えるそうです。年に一度、12月に行なわれる研究発表会はこのしほらく会場は高知女子大学が使われ、小学中学高校大学からそれぞれの代表者が出て、その成果を発表しています。

「生活」は人間の経営体の原点で、戦後復興期のかつての課題はクリアされても新しい課題が山積しています。にも拘わらず疎かにされがちな昨今、日本の将来を担う子どもたちをどう育てるかという大事な役割を担う先生方、とりわけ家庭科担当の先生方には今後とも縦横の情報交換を密にして、ますます研鑽を積んでいただきたいものです。

小・中・高・大 家庭科教育連台会

高知女子大では生活デザイナー

ム立ち上げ」の話も出ました。あるいは少し話を広げて、地震対策として卒業生の職種と現住

「プロジェクトチーム」の立ち上げに向けて

岡本●子育てメッセの話が出ていきましたが、「食育メッセ」ということは考えられませんか？
会長●施設に入ってくる子どもたちに、朝昼晩三食きちんとした食事を摂らせると子どもたちの状態が目に見えて変わってきたという例を体験しています。ことほど左様に食の日常活動への影響は大きいのです。

松吉●具体案に持っていくのは難しいのかも知れませんが、高知女子大のよき伝統が立派に引き継がれているかということに関しては一抹の不安も覚えます。それと少し関連するかも知れませんが、高知女子大学の現役の学生さんの食育という点はどうな感じでしょうか。



松吉 明子 / 1987年、国文学研究大学院大学で修士号取得。英会話学校講師

所の把握をきちんとすること
で「南海地震対策人材バンク」ができるのかも知れませんし。

岡本●高知女子大の笠原賀子先生と連携を取りながら昭和小学校では食育のプロジェクトが実施されています。
このように高知女子大としらさぎ会が連携を取りながら「しらさぎ版食育を考える」プロジェクト

若い会員がもつと関わり たくなるような活動

会長●いくつか具体的な提案も出されました。私にとっては同窓会は「個人の成長」につながる「社会的なテーマ」をどのように採り上げるか、が関心のあるところです。

いずれにしろ今日にふさわしい役割について話し合いが持てたということはたいへん貴重でした。最後に、本日のまとめとすることで、これまでにいい足りなかつたこと、これだけは話しておきたいことなどお話しいただきましょうか。
岡本●「堤の桜」という話を最近聞きました。堤を踏み固めて

クトというのはどうでしょう。
今城●歴史の浅い社会福祉学部ですが県外へも卒業生のネットワークはすでに広がっています。相談員の立場で食のプロジェクトチームに関わる方法もきつと見つかると思います。

久保田●女性の喫煙率が高くなっている現在、健康に関わる職業を持つ卒業生が多いし、「喫煙対策」で会員にアプローチする方法も考えられるのでは。健康生活を目指す方法はキーワードになりますね。ストレスに対する誤解もあるようですし…。

守るためには大勢に足を運んでもらいたい。しかし、ただ「足を運んでくれ」では人は来ないから堤に桜を植えて、人寄せの工夫をしたという話なんです。桜が何に当たるのかはよく分かりませんが、しらさぎ会の総会にまず大勢出席いただくというのが、いずれにしろ、新しいしらさぎ会の一歩になるという気がしてなりません。
久保田●桜の話はよく解ります。まず桜で来ていただき、そのあとも「桜ばかりじゃなくか」みたいないろいろな工夫が不可欠だということですね。



現在の南舎の生協の建物がある辺りは草っぱらだった。手前は、岡本重雄初代学長の草引き風景（写真提供は上下とも松崎淳子会長）



現在の体育館の南側、いま駐車場になっている辺りに建っていた最初の講堂。左端には現在もあるメタセコイアの木が少し映っている

大学在学中のことを思い出し
ても今現在の自分のことを思っ
ても時間のマネジメントがいかに
大事かを痛感しています。いま
の学生さんもさぞかし忙しい
でしょう。しかしだからこそ時
間のマネジメントがほんとに大
事ですよということ強調して、
お互いの専門性を高めていま
きましょう！、さらに、大学教
育は人生のスパンジみたいなも
の、とにかく色々吸収して、純
粋に知識を得ましょう、それが
大学教育の良さです！というこ
とを申し上げておきたいと思
います。

松吉●意見はいえても実行することは難しいのですが…、しかしやらなければ事態は変わりません。高知女子大の存続を考えたら現役の学生の学力と品格を高めなければ、いまの時代、大学は生き残れないなあ…と感

じています。例えば英検を取るといった実用的側面と、本来の大学的アカデミックな側面のバランスこそが大切だと感じています。そういうなかで、同窓会の果たす役割もきつと大きいのだと思います。大学と同窓会がうまく連携して難しい時代を乗り切っていければと思います。
今城●同窓会から大学へ提言していくということもきつと同窓会の大きな役割だと思います。大学の発展のために行なう同窓会活動が、今後とも発展していくようにと願っています。

会長●県立大学としての女子大は地域を担う女性を送り出して地域を支えつつも、自らにも常に進化を課してきました。

私たち卒業生集団としても、個人個人の充実、開花、結果に前向きであるだけでなく、「集団」としての良識を発信するという

課題があると思っっています。で、初めてこのような企画を試みたのです。こうしたテーマと個人の自己実現とは同じレベルの上にあると私は思うのです。
また、半世紀を越える歴史は、それなりの厚い年齢層を抱える集団になっています。若いエネルギーを同窓会にどのように取り込み反映させるのか、新しい同窓会文化を今後とも探っていくかと思うのですが…。
本日は本当にありがとうございます。ありがとうございました。(了)

座談会で提案された課題の要約

(大勢の皆さんの共通理解を得るために)

【1】しらさぎ会総会にどうすれば大勢集まっていたらいいか？

総会自体の内容の工夫と開催時期の再考。そのためには、アンケートを取るの難しいにしても、色々な機会を利用して、時期についての希望の声を集めてみる。

【2】技術を持った卒業生が多いのだから、各方面ごとの専門家集団を「人材バンク」として登録し、何らかの実践的な動きができる方向で整理する。

【3】「子育てメッセ」に類する「〇〇メッセ」に当たるものはできないか？例えば「食育メッセ」とか。かつては、全国のモデルケースと話題になった「食生活提案プロジェクト」も実施された。

【4】求人情報の提供。仕事内容を求職者に紹介し、例えば「求人情報のチラシ」を会報といっしょに各自に送付するとか。

【5】「ボランティア人材マップ」を卒業生が活動している地域や職種ごとに作成する。そのためには事務局サイドで卒業生の動向を或る程度把握しておく必要がある。

【6】「食」とか「医療」とか「禁煙」などなど、領域を特定したプロジェクトチームを立ち上げる。

【7】「南海地震対策人材バンク」を、地震対策がいわゆる今の時期だからこそつくりたいか。

【8】大勢の皆さんにお集まりいただくために、例えば「食」に関するイベントは開けないか。

【9】同窓会から大学へ提言できることもあるのではないか。そのためにも、同窓会としての主体的な活動が求められるのでは。

【10】若いエネルギーを同窓会にどのように取り込み反映させるのか工夫が必要。

※次の総会へ向けて、上記の案件をどのように提案していけるか、役員会を中心に具体的に検討していきたいと思っております。今後ともご協力ください。(企画・渉外係)

他の大学の同窓会の活動内容の紹介

【1】津田塾大学では、「自主グループ」をつくり、核になる何人かを中心に、各種の催しや勉強会を企画運営。

①楽器演奏などのコンサートの開催
②「ふれあいネットワーク」は「同窓生の年代や職業、職歴などの枠を取り払って交流し、お互いを高めあおう」と、ニューズレターの発行、春秋の集い、留学生の支援活動、会員の希望するPR活動の積極的な支援活動

③「地球的な視野に立って、広く人間の健康、福祉、生き方などに関心」を持ち、年に2回の集会を開き、機関誌も発行
④合唱団を結成し、ほぼ定期的練習日を設け、演奏会や同窓会の催しでも成果を発表

【2】日本女子大学同窓会の桜楓会世田谷第四支部では、

①「カルチャー講習会」と題し、年間の通しテーマを決めて実習講座や作品の鑑賞会

②他には「正しい靴の選び方」といった講習会を開くなど年に数回の集まる機会を設定

③「百年館資金調達大作戦」の一貫として錬金術を学び、出来た作品のバザーでまた集まるなど、一つの催しが次の集まりへ広がるような企画で次から次へと無理なく集まれる

④知っているようで意外と知られていない食中毒の最新情報を学ぶ会を保健所から講師を招いて開くなど、身近で必要不可欠な会も開催

【3】駒澤大学同窓会には「女性の会」が婦人部準備会を経て2001年に発足。「無理をせず、ゆっくり芽をそだてながら方向性を模索していこう」と、当面は準備委員が協力しながら、「生活に根ざした女性ならではの活動を模索」することから始まった活動。

①まずは気軽なお茶会を開き、そのなかで組織づくりや企画、運営方針を決定

②ディナーショーやPC教室の開催により、卒業生ばかりでなく、近隣住民にも参加を呼びかけて見えやすい地域貢献

【4】歯学系の大学同窓会では同窓会主催の学術講演会を定期的に開催するという例が散見できる。

【5】神戸大学には1966年に「先輩の基金のおかげで」かまえられた同窓会の拠点「東京凌霜クラブ」がある。どの学部出身者でも夜の9時まで気軽に利用でき、サークルのOB会やゼミの会合にも使われている。クラブの年会費は1万円だが、卒後10年間は半額だとか。

【6】「同窓会ホームカミングデー」を設定して、年に一度、卒業年度が同じ卒業生同士が学部や学科を越えて母校に集まり、親睦を深めたり大学の現況を知る、あるいは恩師や教職員との交流を通じて連携を強めようという例。

【7】高知大学同窓会「南溟会」は年に一度、秋に総会を開催。その後、一般県民も対象とした講演会を開催。因みに本年は9月2日(土)の15時から総会、16時から17時まで講演会、『歴史学から見た山内一豊とその妻』（講師は土佐山内家宝物資料館の渡部淳館長）。

ご意見やお気づきの点をしらさぎ会事務局までお寄せください。
e-mail:sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp 電話とfax (088) 875-7107

しらすぎぎ会 この一年

「駅前複合施設に関するしらすぎぎ会の見解」を提出

大学の後方支援活動を継続するという大義名分で再任された松崎会長以下17名の役員を中心に活動この1年。

会員の皆さんに熱いご協力を戴いた「共学化反対署名」の苦勞や興奮も冷めやらない昨秋、高知駅前複合ビルに女子大一部学部移転構想のニュースが報じられ、またもや大学の在り方や存在意義をイヤが上にも意識させられる日々が始まることになりました。

順を追えば、平成17年9月27日の高知県議会本会議が発端いきなり降って湧いたような移転構想でしたから、役員会としては何はともあれ「どうなっちゅうか流れだけは知りたい」と「現状を知る会」を企画しました。が、諸般の事情からこれは実現には至りませんでした。しかしながら役員会としての見解は公にしておきたいと、2005年12月8日付で「駅前複合施設に関するしらすぎぎ会の見解」を準備し、高知県知事、

庁議メンバー、県議会正副委員長、大学関係や報道関係に配布。①文教の拠点としての永国寺キャンパスの果たす役割のための条件整備の必要性の二点を訴え、唐突な移転構想に疑義を唱えることにしました。

この見解を出すに当たつての準備の役員会が、平成17年度の活動開始以来すでに9回目を数えており、10回目の役員会では経過報告、その後の情報収集と、また本年度も役員招集の回数だけは順調に伸びていったのでした。(役員会の細かい議事については10頁からの総会資料をご参照ください)。

「キャンパス移転は一切決まっていない」と知事発言

その後、役員会として動静を見守る以外に何かできないかとヤキモキしつつも一方では日々の雑事に追われて飛ぶが如く月日ばかりが流れていた本年2006年3月13日の月曜日、高知女子大学の学生や教職員、県の駅前複合施設関係者による「高知女子大学のキャンパスについて考える」ワークショップが、知事公邸で開かれる、と、これもまた唐突なお知らせを耳にしま

した。

このワークショップでのいちばんの収穫は、「キャンパス移転は一切決まっていない」と知事が発言されたことでした。

もう少し詳しく説明すると、①「まず決めて、あとから説得というこれまでの行政の古くさい手法は、もうやめよう」と知事が発言されたこと。さらにもう一点、②「池永国寺、駅前と三つの選択肢があるなかで、どこかを県としてご推奨できる段階ではない。駅前移転にこだわっているわけではない」という発言もされました。つまり、このたびの駅前ビルへの移転構想は全くの白紙と解釈できる、というわけです。さらに、知事は駅前構想に関して「皆の声を、意見を聞きたい」とも発言されました。



反対署名を前に待機中、熱心な地元紙の取材を受けました

「駅前に移転反対」と学長がワークショップ席上表明

第2回目に県側が明治大学の事例としてお茶の水に建てた地上23階、地下3階の駅ビルに大学の本部機能を入れた写真(明大キャンパスは他にふたつ)を示しました。この席上、青山学長は「駅前移転反対」を述べられました。学生たちは、ワークショップそのものを疑い始め、「レールに乗せられていく」と感じる向きもあつたようです。

第3回目の学生対象のワークショップが池キャンパスで開かれるという情報をキャッチし、松崎会長や企画渉外役員が駆けつけましたが、突然



2006年6月23日に署名提出

に中止になったというような出来事も実はありました。県側の足並みの乱れなのか何があったのか一切知らされる由もありませんが、役員会としてはまだまだ手をゆるめるわけにはまいりません。

「移転反対」の署名活動で卒業生の団結力を再確認

5月20日のしらすぎぎ会総会では複合施設へのキャンパス移転に反対する署名活動が採択されました。

高知県内の卒業生や県外各支部の役員さん等に署名依頼書を送付し、街頭署名も含めて合計1万4522名分を、わずか20日間で集めることができました。卒業生の団結の視事さを改めて知らされました。

第288回高知県議会(6月)定例会が23日から始まるまでに何とか知事にこの署名をお届けしたいと日程調整をお願いしましたが、ずいぶん先にならないと時間を取つていただけないとのこと。それならば「できるだけ数の多さを活かせる時期に」と、中西穂高副知事に6月23日会長副会長県支部長がお届けしました。当日は上のような次第で、ドッシリと署名簿の迫力が会員の皆さんにも伝わるのでは。マスコミ各社が取材に見え、と

JR 高知駅前複合施設へのキャンパス移転に対し、**反対** 署名運動を!

しらすぎぎ会会長 松崎 淳子

昨年9月、県当局が「高知駅前の県有地に、県民文化ホール、県立図書館、高知女子大の一部学部を移転させる」案を発表、この唐突な提案に対し、大学当局はもちろん、県民の間にも疑義の声があがっています。

しらすぎぎ会役員会はこの案に対する県民世論の喚起と見解表明のための行動を起こすことを決めました。12月8日付で、「駅前複合施設に関する高知女子大同窓会しらすぎぎ会の見解」と題する文書を作り、知事をはじめ県議会、県の庁議メンバーにお会いして要望いたしました。

青山学長は「学生、同窓生の声を聞く」ことを知事に望まれ、学生に対し県主催のワークショップ(3月13日、5月16日)が開かれました。この席で知事は「決まったわけではない」といわれたものの、強硬姿勢の背景と財源問題が気掛かりです。

5月16日の席上、学長は「反対」の姿勢を表明されました。私たちは、絶好の学びの環境を県民から与えられましたが、県都機能の上からもそれが叡知の現われであったと思います。同窓会の名を「しらすぎ」としたのも、緑の杜の白い姿がお城とマッチして、夢を描かせてくれたことにあります。それは、大学のキャンパス機能の大切な一面でもあります。

さて、以上のような情勢の中にあつて、しらすぎ会役員会としては、反対署名運動を企画し、5月20日の総会で参加者全員の支持を得ましたのでこうしてお送りし、皆様のご協力で短期間に出来る限りの数を集めたいと願う次第です。

県立大学の絶好の学びの環境を守るために、皆さん、できるだけ多くの反対署名を集めてください!

▲2006年6月、高知県内在住しらすぎ会の会員と、全国の支部長さんを中心に送付した反対署名の依頼状



報道各社の質問に答える松崎会長

くに熱心な記者に対し役員は「じっくりと足元から確認していただけるようで、とっても頼もしい」と同志を得た力強さをしっかり感じているよう

でした。

女子大一部移転は、「根本から見直すべきと考える」

6月県議会本番を迎え、溝淵県議の質問では、女子大一部学部移転構想に関し、県民に実施したアンケートでも反対や慎重論が多く、女子大移転は根本から見直すべきと考える」と。これに、文化環境部長は、整備を行ない「秋ごろには県民の皆さまに示したい。そののちは県民のアンケートなどを通じ意見を求めたい」と回答されました。(文責 坂本)

初代・現会長の思い、伝えたいこと

同窓会の存在そのものが進化に向けた発信で在りたい

高知女子大同窓会しらすぎ会・会長 松崎 淳子



進化を続ける大学への後方支援

5月20日、総会が終わり、今期が始動。採択されたキャンパス問題の署名集めに時を移さずとりかかり、短期間に皆さんのご協力を得て知事(副知事)に提出という、慌ただしい新年度の幕開けとなりました。

さらにほんの先日、お盆明けの日の役員会では9月県議会への請願が決まり、目下作業中です。大学が社会の進化を担う資本として機能し続けるためには、大学自らにも進化を課すべきと母校は努力を続けており、しらすぎ会はその後方支援に微力を注いで参りました。

菩提樹の枝のそよぎ、同窓会の心

さて、「会」と称する集団が組織され、役員をおいて会費を運用するかぎりは、会員が納得できる「灯」を消すことなく在り続けたい。学部学科の隔てなく睦みあった仲間たち。手塩にかけてくださった恩師。多感な青春の日々を共有した友や師が宝物であるとの実感は、再会のたびに確かめあっているのではないのでしょうか。

私の在学時、ドイツ語で愛唱した「菩提樹」の詞には「思えばあの場所から何と永く遠ざかっていることだろう。しかも私は常に聴く。ここに安らえという枝のそよぎを」とあり、「帰っておいで私の友よ、ここに安らいがある」ともあつて、まさにひとの情の根源を歌っていますが、同窓会の心もそこに在ります。

皆さんの提案を心から期待しています

一方、母校が歴史を重ねた分、しらすぎたちの年齢層も厚みを増しました。暮らしの手段が変わり、文化も変われば、求める「質感」にもズレが生じるのは当然の成り行きかと思えます。が、母校もそうであるように卒業生集団もまた社会的存在であることに変わりはありません。質感が変わっても根源は変わらないように。存在そのものが進化に向けた発信で在りたいものです。

これまで継承してきた会員、後輩、恩師、母校に向けての事業について改めて見直すことも、いま求められているように思います。人数の多くなった支部への支援策とか、入学時に入会金を納めていただいている在学学生を準会員の支援している奨学金制度はこれでいいのかなど。

会員の皆さんからの提案を、心から期待いたします。

各支部のこの一年

高知県支部

支部長 宮田 福



『功名が辻』の放映で、高知城杉の段に名馬と並ぶ千代さん、脚光を浴びています。お城下にある高知県支部は会員2881名の大所帯。活発に会員さんに期待される活動をしていきたく、支部役員一同うんと力を入れています。高知県支部会則に「支部は、しらすぎ会の運営を支援し、会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあります。役員会では目的に沿った支援、会員さんとの親睦、交流のためには、ネットワークづくりを始めることが、支部の重要課題だと確認しました。そこで、県内を3ブロック(西中、東)に分け、ネットワークづくりを始めました。歩みはスローですが、一昨年から取り組んでおります。16年度は東部地区を皮切りに、中央部も同じく、「大学の現状と問題について」青山学長の講演会を開きました。17年度は10月に西部地区(四万十市、宿毛市、土佐清水市)でも同様の交流会を持ち、23名の出席がありました。18年1月末に、高知市で「教育環境を問う新たな大学問題、いつまでも若々しい健康ライフ」の2本立ての講演会で青山学長を講師に開催。講演の後、会費3千円で「おしゃれで、味もよし」の軽食を味わい、交流しました。寒い季節でしたが、94名の参加があり、役員一同感謝、感激しました。

どの会場でも講演に参加者は感銘を受け、「参加して良かった。もっと多くの会員に聞かせてあげたい。地域での集まりの会を今後も持つて欲しい」など、嬉しい発言がありました。初対面の方もいるので、東部と西部ではそれぞれ自己紹介を行ない、学長を囲んで質問なども交え、和やかな会でした。東部、西部ともに初めての集まりでしたが、核になるお世話役の呼びかけなどご尽力のおかげで、楽しい会ができました。小規模ながら県内3ブロックで懸案の会員同士の交流がひとまずできました。18年度も、会員相互にもっと親睦を深め交流しあえるように、地区別にミニ研修会(健康問題その他、希望のテーマによる)や交流会などを地区の世話役さんと相談しながら企画していきます。

支部役員は老、壮、若の年齢構成で、出身学科も偏らず、真面目な明るいメンバー、顔の見える、声の聞こえる運営を念じております。ご承知のように、県立大学は県民世論によって方向が決まることがあるので、高知県支部の役割には大きいものがあります。本部から突然の要請があれば「いざ、鎌倉」と馳せ参じ、共に後方支援に頑張っています。大学問題で新しく高知駅前前の複合施設に一部の学部を移す構想が出され、反対の街頭署名活動に6月3日4日の2日間、役員も会員も参加。署名をしながら県民の皆さんからの激励の声が有難く、元気をいただきました。その他、会員の協力によるたくさんの署名が集まり、「数は力」の一翼を担えました。7月には駅ビル問題が県議会で質問されましたので、傍聴にも会員とともに参加しました。「数は力」のご時世。支部の皆さん、ご協力よろしく、お願い致します。

徳島県支部

徳島県支部総会は、隔年に開催しており、一昨年は平成16年10月23日に実施致しました。しらすぎ会本部企画委員をされている寺内アヤ子先生をお迎えし、高知女子大学の現状や今後の課題について教えていただき、母校への思いを深め、女子大の益々の発展を願ったものでした。また、先輩後輩の絆を越え、楽しく交流することができました。



高知女子大学 しらすぎ会 徳島県支部 平成16年10月23日 於 ホテルクレメント徳島



今年には総会実施の年です。確定はしておりませんが、平成18年11月11日(土)に開催予定です。詳細が決まりましたら、ご案内させていただきますので、ぜひご出席ください。会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

両上りの青葉の美しい松山の地から支部の報告をいたします。毎年6月第4日曜日12時から「しらすぎ会愛媛の集い」を開催することを恒例としていきます。今年も去る6月25日に開催され、40回目の記念の会として思い出に残る集いを持ちました。高知から高知女子大学名誉教授の山崎美恵子先生にお越しいただき、母校の近況や現状について講話を交えながら30分のお話をいただきました。先生と同輩の同窓生は、学生時代の廃学・統合問題のデモをつい昨日のことのように懐かしく思い出し、若い同窓生は戸惑いながらも母校の大変な現状を知ることができました。

また同窓会全体で取り組みました一部学部移転反対署名運動について支部の取り組みの報告、来年の「集い」の幹事の選出もされました。(支部長 山上ユリ子)

広島支部

2年に1回開催の広島支部会。今年がその年です。前回はいしらすぎ会本部から松崎淳子会長をお迎えし、母校の現状などを伺いました。

皆さんは、支部会の開催方法をどのようにされているのでしょうか？ 私たちは以前は広島県を東西に分け、東の福山地域と西の広島地域とで交互に開催していましたが、最近では、学科によって幹事役を担当するというようにしています。前々回は英文学科、今回は看護学科の方にお世話役をお願いしています。

開催日時の決定、会場探し、約130名の支部会員への連絡など、準備も大変ですが、当日参加された方々の笑顔と、皆様からいただく「また、次のお会いしましょう」という言葉に、元気が出てまいります。

今回の支部会の詳細はまだ決まっていますが、秋には開催の予定です。たくさんの方の皆様にお目にかかりたいと思います。近県の方も歓迎です。どうぞお気軽にご連絡ください。(広島県 田中めぐみ)

京阪神支部

2年にいちど支部総会はこの数年、勤労感謝の日の開催を恒例としており、本年は11月23日(木)の予定となっております。

会場は前回の総会で希望の声が聞かれた京都で検討した結果、市内中心で便利な場所にある「ホテルビノ京都堀川(京都市上京区堀川通・電話075-432-6161)」を予定しています。

「高知女子大でつながった心のふるさと」としての温かさ、懐かしさに触れる機会としていただきたく思います。宿泊もプランも兼ねた参加はいかがですか？

学科持ち回りでの本年の担当は家政学科となっております。本部のご協力を得ながら近くの会員同士で協力して準備を進めていきます。どうか支部会員の皆様の多数のご参加をお待ちしています。(京阪神支部 平岡智恵)



関東支部

関東支部総会・親睦会を昨秋11月20日「新宿モリス」で開催しました。前夜からの雨もあがり、新宿副都心の紅葉の美しいなか、鹿児島から木場富喜先生、母校からは佐藤恵里先生をお迎えし、46名の会員の方が出席くださいました。木場先生からは若かりし頃の懐かしいお話や失敗談など大盛り上がりでした。また、佐藤先生からは、当世女子大生気質についてとても興味深いお話がありました。「学生ではなく生徒であったり、逆に年配のオバサン感覚を持ち合わせていたり、また何のためか、現在抱える改革構想などをお聞きできました。母校を懐かしく思い出すと同時に現状を知ることができた、とても有意義な会でした。次回は来年11月の予定です。(関東支部 土只孝子)

東海支部

こんにちは。しらすぎ会員の皆様お元気ですか。東海支部の近況をお知らせします。17年度の支部総会を11月12日(土)に開催しました。参加者は長野県1名、岐阜県1名、愛知県10名の計12名。初めて参加した会員もおられ、楽しいひとときを過ごすことができました。

おいしい季節料理をいただきながら学生時代の思い出や近況を語り合いました。クラス会とは異なり、地域で活躍する先輩、後輩と縦の線で繋がり温かい気持ちになれる大切な会です。母校のキャンパス事情や情報を得ることもできる支部会は宝物の会です。東海地区の同窓生に限定しての会ではありません。どなたでも参加してください。11月の第2土曜日を定例化しています。

18年度は11月11日(土)、ロイヤルパークイン名古屋2階「京たちばな」、会費は約5千円。正午から開催します。一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。

(18年度東海支部幹事 白石・竹内)

九州支部

隔年の懇親会を、昨年10月沖縄で開催しました。大学より、宇久眞雄先生(沖縄出身)をお迎えし、退職後のライフワーク(翻訳)や、母校の厳しい状況について話してくださいました。

参加者12名(沖縄県内7名)と少数でしたが、円卓を囲み、県産の食材料理に舌鼓を打ちながら、終始和やかな雰囲気でお話することができました。退職後、翻訳をされている宇久先生や、料理の趣味が嵩じてイタリヤ留学を果たしたNさんの話には「生涯現役」を再認識させられました。

閉会后、宇久先生から全員に本が贈られ二重の喜びです。宇久先生を囲み話に花を咲かせる者、足早に観光に向かう者、沖縄を満喫し離沖する者



支部会員は毎年一度の集いを約束し散会となりました。来年は福岡でお会いしましょう。(世話役 栗国恵子)



▲顧問の芦生裕信先生も、地元の新聞社の方々もご出席くださいました

▲平成18年度しらさぎ会総会で

- 式次第
1. 開会の言葉
 2. 名誉会長挨拶
 3. 議長選出
 4. 報告事項
 5. 議事
 6. 閉会の言葉
1. 報告事項
 平成17年度活動報告
 平成17年度会計監査報告
 平成18年度活動計画案
 平成18年度予算案
 その他

平成17年度活動報告

1. 総会 平成17年5月21日 (1) 役員会 13回開催
 - (2) 第1回 平成17年6月10日(金) 審議①今年度活動計画②総会保留の委員会(留学生、在学生支援)③事務職員採用人事について④今年度の事業について
 - 報告①総会報告②エルムズ留学生のお別れ会について
 - 第2回 平成17年6月30日(木) 審議①会報について②講演会について③大学支援について④会員名簿について
 - 報告①事務職員の雇用について②署名活動の集約と提出③南裕子さん・久常節子さんの祝賀会について④香川支部総会報告
 - 第3回 平成17年7月19日(火) 審議①南裕子さんの講演会について②名簿について③会報について④ホームページについて⑤女子大問題について⑥奨学金
- の返済について
 報告①南裕子さん・久常節子さん祝賀会及び新聞広告について②事務職員雇用について
- 第4回 平成17年8月5日(金) 審議①南裕子さん・久常節子さんの祝賀会について②名簿発行部数について③会報について④南裕子さんの講演会について
- 報告①事務局連絡先
- 第5回 平成17年9月1日(木) 審議①南裕子さんの講演会について②名簿・会報の発送について③大学側への名簿の提供④通帳管理について⑤奨学金
- 報告①南裕子さん・久常節子さん
- 第6回 平成17年10月1日(土) 審議①高知駅前開発に関する大学への支援について②名簿発送について
- 報告①奨学金返済について②名簿発送について
- 第7回 平成17年10月20日(木) 審議①高知女子大学再編成につき情報収集②しらさぎ会シンポについて③奨学規定改正
- 報告①南裕子さんの講演会②駅前開発案などに関する県議会
- 第8回 平成17年11月10日(木) 審議①高知女子大再編成案及び駅前開発に関する今後の活動方針②奨学金規定改正について③ソレとの事業協力協定への資金援助について
- 報告①高知県支部西部地区しらさぎ会のごとく②企画建設委員会、駅前県有地の活用③短大の動き④奨学生について
- 第9回 平成17年12月8日(木)

平成18年度 活動計画

1. 会議 1) 総会 5,20 2) 役員会
2. 企画・渉外
 - 1) 駅前複合施設への一部キャンパス移転反対署名
 - 2) 会報『しらさぎ』での座談会 (平成18年9月予定) 8,000部
 3. 会報『しらさぎ』第40号発行
 4. 名簿 原簿の整理
 5. 支部強化、あるいは支部再建
- 高知県支部: 平成18年5月20日(土) 高知女子大学永国寺キャンパス他
- 愛媛支部: 平成18年6月25日(日) 東海支部: 平成18年11月11日(土) ロイヤルパークイン「京たち花」
- 京阪神支部: 平成18年11月23日(木) 新神戸オリエンタルホテル
- 徳島支部: 11月初旬
- 広島支部
6. その他

審議①駅前開発に関するしらさぎの見解について②会報しらさぎの企画③支部づくりの補助金の拠出④奨学金の返済

報告①高知駅前広場に関するシンポジウムについて②社会科学系学部基本構想

第10回 平成18年1月12日(木) 審議①社会科学系学部構想骨子に関する今後の対応

報告①「駅前複合施設に関するしらさぎの見解」の配布と経過②高知県支部「学長を囲む講演会と懇親会」共催

第11回 平成18年3月3日(金) 審議①駅前複合施設への女子大移転についての今後の方針②総会準備③事務職員について

報告①高知県支部「学長を囲む講演会と懇親会」②県議会企画建設委員会③学長諮問会議

第12回 平成18年4月13日(木) 審議①総会準備②駅前キャンパス問題③事務職員について④高知県支部の会費について

5. 支部強化 8頁9頁を参照。

3. 会報係からの報告 『しらさぎ』39号を平成17年9月1日に発行。12頁で8千部。

4. 名簿についての報告 名簿を9月1日に発行。1千2百冊印刷、983冊販売。原簿の整理。

報告①ワークシヨップ「高知女子大学のキャンパスについて考える」について②キャンパス問題対策特別委員会準備会

第13回 平成18年4月20日(木) 審議①署名活動について

2. 企画・渉外係からの報告 南裕子国際看護協会会長・兵庫県立大学副学長の講演会「世界における女性の課題」私の体験より」には200名近い参加をいただいたこと。総会で承認されたら、駅前複合施設への移転に反対する署名活動に直ちにすることなど。企画したが検討の結果、実施に至らなかった案件として①「現状を知る号」②駅前キャンパスに関する号外。

平成17年度会計報告(平成17年4月1日~平成18年3月31日) 平成18年度予算案

【収入の部】

	H17年度予算	H17年度決算	備考
基本金			
繰越金	13,948,874	13,948,874	
入会金	270,000	265,000	H17年度入学1000円×265人
利息	-	163	
合計	14,218,874	14,214,037	
一般会計			
繰越金	5,220,394	5,220,394	
入会金	3,850,000	3,850,000	H13年度入学14000円×275
名簿売上げ	4,500,000	2,330,000	582冊×4000円, 旧名簿1冊×2000円
受取利息	-	6,060	5977円(定期預金)+83円(普通預金)
奨学金返済金	350,000	120,000	毎月返還10,000円×7回, 10,000円×5回
その他	584,454	651,954	H16年度寄付金, 名簿広告料, 校章他
合計	14,504,848	12,178,408	①

【在学生一般会計預かり金】

	学部預かり額	備考	大学院預かり額	備考
H14年度入学	3,346,000	14000×239	350,000	14000×25
H15年度入学	3,528,000	14000×252	266,000	14000×19
H16年度入学	3,304,000	14000×236	420,000	14000×30
H17年度入学	3,360,000	14000×240	350,000	14000×25

【支出の部】(一般会計)

	H17年度予算	H17年度決算	備考
事業費			
総会費	50,000	0	H17.5.21開催
卒業祝い	180,000	163,212	小風呂敷580円×270枚+税(学部えんじ色, 院紫)
入学祝い	95,000	0	タイタック校章在庫所有のため
企画・講演等	100,000	108,000	南裕子講師謝礼, 交通費, 会場花, チラシ印刷
支部強化	900,000	627,000	通信費補助, 参加補助費
会報	1,000,000	637,000	39号A4カラー12頁, 添付用印刷物8000部
会議費	100,000	144,914	役員会
名簿作製	4,290,000	3,670,233	1200冊
奨学金	1,000,000	0	希望者なし
小計	7,715,000	5,350,359	
事務費	400,000	121,769	事務用品, 振込料
報償費	150,000	9,000	事務, 名簿入力等アルバイト
賃金	1,030,000	827,500	
通信費			
会報発送	550,000		会報6500部, 名簿発送 919冊
名簿発送	750,000		
その他	110,000	121,735	10月より専用電話代, 切手代等郵送料
小計	1,410,000	827,437	
予備費	3,799,848	400,911	事務用品(PC, 机, 椅子, FAX電話等), 慶弔費 ※
合計	14,504,848	7,536,976	②

一般会計 次年度繰越金

収入(一般会計) - 支出 = ① - ② = 12,178,408 - 7,536,976 = ¥4,641,432

【寄付金】

	残高	備考
繰越金	0	
H17年度寄付(振込)	493,000	
振込手数料	△ 29,650	
H17年度寄付(現金)	42,000	
合計	505,350	

※ 児島英也先生香典

監査報告

領収書, 出納簿, 預金通帳等を監査した結果, 財務が適正に処理され, 誤りなどの問題がないことを認めます。

平成18年4月27日 会計監査 久保慶子 西岡進子

レター

9000人に及ぶ卒業生の情報をできるだけ広くきめ細かく集めたい! と言っても現実的には難しいものがあります。気持ちはホントに通ります。事務局(088) 8757107まで何なりとご連絡ください。

▼もともと広い大きな輪の拡がりをもつと、青山英康学長責任編集・県立高知女子大学広報季刊誌「女子大ノート」が、平成18年8月創刊されました。青山学長座談会の第一回ゲストは高知女子大学後援会の入交太二朗会長。他に高知女子大の極めて分かりやすい地域貢献活動や南海地震研究のキーマンの先生の紹介など、読んで役立つ、見て楽しい内容が盛りだくさん。皆で熱心に読んで「女子大」になり、セッセと母校を宣伝しよう!

▼本年もまた計報をお知らせしないとイケません。草創期の女子大を温かく力強く支えてくださった調理学担当の岩貞好先生が6月6日亡くなられました。心からご冥福をお祈り致します。

人事消息 教職員(敬称略)

退職(平成17.9.30)看護学部講師青木典子(同12.9)社会福祉学部講師長南浩人(平成18.3.31)看護学部助教吉田亜紀子、生活科学部教授原純子、社会福祉学部教授栗田明良、社会福祉学部教授松田真一、文化学部教授鈴木亮一、看護学部助教手松木里江、社会福祉学部助教齋藤征人、生活科学部講師村瀬敬子、生活科学部助教手宮本恵美、生活科学部教授渡邊文雄、文化学部教授山口俊治

採用(平成17.9.8)看護学部助教手田貴子(同11.1)生活科学部助教草間かおり(平成18.1.1)社会福祉学部講師鈴木孝典(平成18.4.1)社会福祉学部教授田中きよむ、看護学部助教松本鈴子、社会福祉学部講師西梅幸治、文化学部教授松本茂章、生活科学部助教手野尚美、生活科学部助教手小場美穂、看護学部助教手高見千恵、社会福祉学部助教手太田こずえ

恩師はいま

「趣味」シリーズ

定年後の高知での田舎暮らし

この3月いっぱいまで定年退職された仏文学の山口俊治先生は、長崎県の島原半島で過ごされた少年時代そのままに「野山を駆け巡る夢」を描かれたのかどうか…、緑溢れる香我美町の山林千数百坪を手に入れられ、「定年後の高知での田舎暮らし」を始められました。「娘夫婦に設計してもらった」とおっしゃる五十坪弱の平屋は、風が優しく通り抜け柔らかな日射し、この「快適さ」を表わすどんな言葉も何か物足りないほどに、とても気持ち良さそうでした。(編集室)



南面のこの辺り一帯が山口家の敷地だった…

段々畑のヒルズ族

山口 俊治

4月から田舎暮らしを始め、3カ月、いま梅雨を迎えています。かつてミカン畑でしたが、いまはヤブにおおわれた段々畑を購入し、下の広い段に家を建てました。上の段は今、カヤや笹が茂っています。カマとツルハシで少しずつ切り開いて、栗や桃などを植えています。

5月半ば頃、夜になってホタルが一匹、庭の上を点滅して行きました。「我が家の庭にホタルが！」と相当驚き、さっそく探索に出発。川の方に下りて行くと、次々にホタルの点滅が見えて、小川の辺りは茂みに沿って無数に舞っていました。戦後の食糧難の時代に育ったので、家にニワトリ、ウサギ、

山羊、羊を飼っていて、エサの草を刈ってくるのは小学生の私の役目だった。中



段々畑6段目に昼寝用の平らな台を作った

線香専用台
蚊取り線香



先生ちの屋根

道路からお宅まで歩いて70秒だった…



果樹の枝の育つ方向にも、各種工夫を凝らし…

学生になった頃から、家の食糧事情も改善し、山羊も羊もどこかに譲って、いなくなってきたから、草を刈る仕事はなくなりましたが、山野で山菜、アケビなどを採集する習慣は残った。大学時代は稲刈り、い草(畳表の材料)刈りのアルバイトで稼いだ。

高知に赴任して海釣りの楽しさを知った。三十代の始め頃、土、日は自転車にクーラーを積んで、釣竿を背負って海辺まで通った。宇佐の海岸まで90分を要した。

次に船釣りに興味をもち、海水浴用のビニールボートを購入。同僚と二人で宇佐湾に浮かべて釣りを始めた時、いきなり「ブハア」と破裂音がして、見る間に空気が抜け、二人とも海にとび込み、グニャグニャに

なって浮いているだけのボートをバタ足で押して岸にたどり着くことが出来た。ずいぶん昔の話だけど(泳げなかったから必死だったせいかな忘れられませんが)、だから海に近いことも土地さがしの条件だった。段々畑から海は見えないが、車で10分で海岸に行ける。

段々畑を購入したのは2年前だったから、家を建てる前に柿、ビワ、グミ、イチジク、ナシ、ザクロ、ブルーベリーなど10種くらいの果樹を既に植えた。うまくいったりいかなかったり、色々やってみるのが面白い。トロピカルフルーツも予定している。アボガドのあの大きな種子がどのように発芽するのか楽しみだ。

ツルハシで笹の根を掘り起こしているのと全身に汗をかく。杉の切り株に腰かけて休む。段々畑は見晴らしがいい。下に農家の家々が見える。段々畑は「丘」のようなものだから、私はヒルズ族に属するのかもしれない。

2、3年したら実がたくさん成ります。遊びに来てくださいます。(6月30日、記)

集記

▼今年度も新会員が259名増えました。

▼ホームページがリニューアルされています。小まめにチェックしてね！▼もっともっと皆さんの声の行き交う会報になればと思います。(会報係 和田、今城)

ホームページ kochi-wu.ac.jp/~sirasagi/
e-mail: sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp